



←作るほぼ

リメイク花水木は、WEショップ大倉山店の近隣で活動しています。

現在8名で、T シャツから布ぞうりを作ったり、ジーンズを細く切って裂き編みでバッグや鍋敷きを作ったり、和布で猿ぼぼ人形を作ったりしています。

お問い合わせは
大倉山店 045-547-6241 へ

ぞうり工房メンバー募集中です!!

ご寄付頂いた古浴衣を使用して、わいわいとお喋りしながら布ぞうりを編んでいます。

見学&体験は随時

※ 先ずは、優しい履き心地の自分の布ぞうりを編んでみませんか?

毎月第1&3水曜日 13時~15時

チームびっくり箱では、あまり毛糸で手袋を編んだり、着物でエプロンやエコバッグなどを作ったりしています。絶対にこれを作らなければならないという決まりはないので、柔軟なアイデアを持つ方の参加をいつでもお待ちしております。

毎月第4水曜日 13時~15時



WEショップこうほく
日吉店で活動しています

←布ぞうり

手袋→



お問い合わせは 日吉店 045-563-1808 へ

第12回小さなまちの小さな平和展 3/4(月)~3/8(金)大倉山ギャラリーかれんにて

主催はひとりひとりが尊重される平和な世界を願う9団体。こうほくはフィリピンモニタリングツアーの報告掲示やシサムコーヒー、ジンジャーティ、エコ手袋、手作り小物の販売を通じて活動をアピールし、他団体の熱い思いにもつながることができました。

6日には、福島原発がなわ訴訟の判決報告会を原告団団長村田弘氏を迎えて持ちました。国の責任を認めたことを評価し、勝訴としながらも不十分な賠償金や被曝リスクへの言及が全くないなどから控訴にふみきったこと、長く続く裁判の日々のご苦労を語られました。

季節の風に吹かれながら楽しくおまつりに参加しました

- ・第11回錦が丘桜まつり 3/31(日)錦が丘ロータリー・町内会館など菊名駅周辺にて
- ・らくらく市2019 (since1986) 5/19(日)菊名地区センター前広場にて
- ・ふるさと港北ふれあいまつり 6/1(土)新横浜少年野球場にて
フェアトレード品、手作り品、雑貨の販売やちらしの配布などを通じて、たくさんの方たちと交流することができました。

チャリティの
リユース品は宝の山!



こうほくブース

6/1の売上はフィリピン「コーヒーの森づくり事業」に

大倉山店アニバーサリーセールのお知らせ

おかげさまで開店17周年!

7月16日(火)~20日(土) 半額セールを開催します。(リメイク品・フェアトレード品は除きます) ご来店おまちしております。



会員募集 [年会費1500円]

私たちが法人として活動できるのは、会員の存在があってこそ! 会費は支援地訪問や報告会、学習会等々に使われます。ぜひご支援をお願いします。



ぜひ一緒に

ボランティア募集

例えばショップボランティアは、お店での接客、整理整頓など、週1回2時間程度から。
* 交通費実費払い * ミーティング随時開催
仲間との親睦も深まり、楽しく活動できます。



WE21 ジャパンこうほく ニュース

2019年6月
NO.126

認定NPO法人WE21 ジャパンこうほくは リユースリサイクル・チャリティのお店「WEショップこうほく」をボランティアで運営し、その収益でアジアの女性たちが自立して暮らしていけるよう民衆支援活動をしています。

発行 特定非営利活動法人WE21 ジャパンこうほく 〒223-0061 港北区日吉2-12-7 TEL/FAX 045-563-1808

<https://we21kk.org/> <https://www.facebook.com/we21kouhoku/> <https://we21kk.hatenablog.com>

新年度がスタート

第15回通常総会が5月23日開催され、提案された議案はすべて承認されました。総会に引き続き防災講座を開催。こうほくからの情報発信イベントとなりました。



新旧役員のご紹介

退任役員 今村妙子さん 監査委員 高橋孝子さん
新任役員 橋口朱美さん 監査委員 今村妙子さん



代表よりご挨拶

2018年度はイラク・カンボジア・フィリピンの民衆協力事業地からパートナー団体の代表やスタッフ・受益者の方たちを迎え、また、こちらからもフィリピン事業地モニタリング参加、国内支援先の子どもセンターてんぼの自立援助ホーム訪問など、学習・交流・報告の機会を多く持つことができました。私たちが企画したおしどりマコ&ケントークライブやチョコ募金報告会にもたくさんの方に参加いただきました。そうしたことは、ショップで寄付やお買い物で参加して下さるみなさんに支援事業をしらせることにもつながり、寄付の方・お買い物の方・ボランティアの方がチャリティショップに集い、みんなで元気にショップ事業・支援事業がすすめられていると感じられた一年でした。

今年2019年度は、

- ・WEショップ日吉店でのWEカフェ開催など拠点でできることをみんなでわいわいやっていくこと
- ・民衆協力事業の経験を活かして「JICA草の根技術協力事業支援型」に申請団体として応募すること
- ・法人への賛同者を増やしていくこと
- ・ボランティアを増やしていくこと
- ・認定NPO法人の更新申請すること

など、たくさんの課題があります。みんなで分担し協力してすすめていきたいと思っています。

WEショップは、だれもがわいわい集ってみんなで協力しているいろいろなことができる場所です。さまざまな課題に取り組んでいける場にしていきましょう。 砂田正子(代表運営委員)

総会イベント防災講座に参加して 高光利恵(こうほく会員・日吉店ボランティア)

講演「大災害~命を守るために個人・地域ができること」

実演「やってみよう ポリ袋調理」

講師：国際救急法研究所理事長・港北区災害ボランティア連絡会会長 宇田川規夫氏

「大災害…個人、地域ができること」の講話のあと、バッククッキングを体験し皆で味わうイベントは、新鮮な発見や日頃の反省を促される貴重な機会でした。

印象的だったことを二つ。一番守りたい命は誰の命?と問われ、単純に自分と自分の命ですが、子どもと二人で究極の場に直面したらどうなるのか?若い命を守れるだろうか?と東日本大震災などの体験談が頭によぎる重い選択に唸り、横に置きたくなる命題でした。災害時に必要となる時間が早いものは、どれ?水、食べ物、防寒具、トイレ、靴。順位をつけ、その理由は?という考え方をしなかつたから、今度こそベッドの傍にスニーカーを置こうと。

バッククッキングは、こんなに簡単に湯煎料理ができるの?と驚き、味の良さにまたビックリ。高気密のポリ袋が必要ですが、日常的に我が家で作るのも面倒がなくていいかなと思ったのでした。

帰宅後、子どもに体験を話し、翌日に再会した友人も家族で色々話したよと。きっと参加された皆さんも話題にされた事でしょう。これこそ「個人・地域でできること!」ですね。



宇田川規夫氏



蒸しケーキ調理中

こうほくの主な活動指標

会員数	51名
WE ショップ事業	16,348,078円
寄付者数(延べ人数)	4,824名
ボランティア数(延べ人数)	1,832名
国際協力・国内支援金総額	2,154,643円
収益金・会費・寄付金より	1,507,810円
店頭募金・指定寄付金	646,833円
フェアトレード仕入額	281,082円



MOAPA メンバーの皆さんと

「コーヒーの森づくり事業」 モニタリングツアーに参加しました

今年の1月半ば、フィリピン北部のベンゲット州にあるコーヒーとジンジャーティのふるさとを WE21 ジャパンみなみ、いそご、こうほく(2名)の計4名で訪ねて生産している農家の皆さんに会ってきました。

「コーヒーの森づくり事業」の事業地、住民組織 MOAPA(モアパ)のあるコロス集落やタビヨ集落、またジンジャーティの生産者ダイヨコン農業組合は標高 700-1000mに位置し、マニラから高速道路を北上して7時間かかるベンゲット州の中心地バギオから、1時間以上も車に揺られて登っていく急峻な山間地にありました。12月から始まったアラビカ種のコーヒー豆の収穫で残り少なくなっていました。赤く熟した実(コーヒーチェリー)を収穫体験させてもらい、斜面に立っての作業は足腰の鍛えられてない私たちには結構キツイ作業でした。

コーヒーは生育から収穫までに強い日差しを避けたり台風被害など心配は尽きませんが、収穫してから乾燥した生豆となるまでにも大変手間のかかる作物ということが初めて分かりました。チェリーの皮むき→発酵→水洗→1ヶ月以上の乾燥期間と手間と時間をかけてようやく生豆になります。前年度の支援金の一部は豆の乾燥施設を作るのに使われ13か所にできており、急な雨でも濡れないようになったそうです。また豆の水洗に必要な水は貴重品で、この集落で水問題は課題となっており、山の水源地の水を貯水タンクに貯めて各家に配る計画はあるのですが資金不足で実現に時間がかかっている、車で売りにくる水をタンクに貯めたりして賄っています。

100年持つというコーヒーの木を「若返り」させつつ、次の世代に引き継いでいきたいと住民組織の皆さんは元気に頑張っていました。

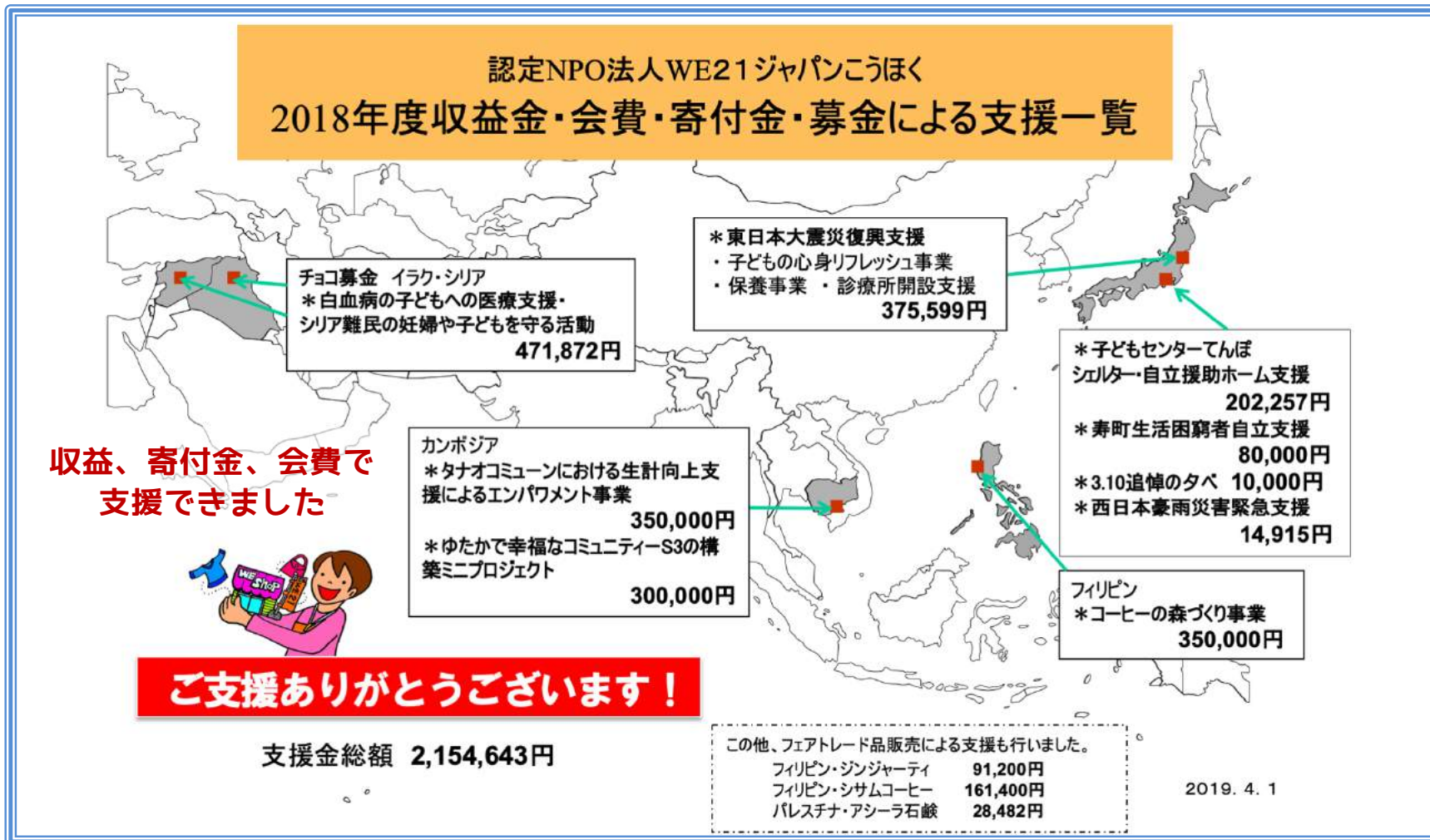
ダイヨコン農業組合では、私たちの取組んでいるジンジャーティ作りを見せてもらいました。素焼きの壺の中で生姜と黒糖の液体が徐々に煮詰められてサラサラの粉末に変化していく過程は感動でした。コーヒーやジンジャーティを飲むと、皆さんの笑顔が浮かびます。松尾百合子(運営委員・事務局長)



豆の乾燥施設



ジンジャーティができた!



JIM-NET 活動報告会「イラクの今、これから」 2019年1月15日(火)日吉店にて

療養中の子どもたちの家族が宿泊できる新しいJIM-NETハウスの完成や、内戦前からシリアで活動していた斉藤氏ならではのお話を伺いました。

JIM-NETの主な活動

- ・イラクにおける米軍空爆による小児がんの子どもたちへの医療支援
- ・イラク国内避難民、イラクに逃れてきたシリア難民キャンプでの支援
- ・福島の子どもたちを放射能から守る活動



「オリーブの白い花が咲く頃の内戦前のシリアは、その木々の下は芝桜のピンクで埋め尽くされ、それはそれは美しかった。」(斉藤亮平氏)

チョコ募金キャンペーン (2018.12.10~2019.2.9)

特定非営利活動法人JIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)のキャンペーン、550円の募金で六花亭のチョコをプレゼントする活動への協力は12年目となりました。ショップのお客さまや地域の団体の協力も得て下記の通りの募金額となりました。また、JIM-NETスタッフ斉藤亮平氏による活動報告会も持ちました。

チョコ募金：カード含め786個分430,800円 店頭募金:41,072円 合計 471,872円

「3.11を忘れない」キャンペーン (5,7,9,3月の11日前後)

福島や原発被害について考えてもらう機会とするために、5,7,9月には福島産品などを取り寄せ販売し、3月11日にはお買い物を通して「たらちね」への支援をいただきました。

【福島子どもこらっせ神奈川への支援】

7月11日の全売上げ：75,590円 7月1日~31日の店頭募金：12,962円 合計 88,552円
8月に福島県の小学生26名が参加した、神奈川県山北と横浜での保養や交流会プログラムに寄付をしました。

【認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちねへの支援】

ショップ収益より：150,000円 寄付金：37,280円 店頭募金：99,767円 合計 287,047円
たらちねは生活環境の放射能を測定し、公表し、特に子どもたちの健康を守るためにクリニックや無料検診を展開してきました。また、新しくこころの健康施設も開設し、活動に強く共感して寄付をしました。

